
特定非営利活動法人アサザ基金
第17期（2015年）通常総会
議案書

日時： 2016年4月29日（祝）13:30～16:30

場所： 牛久市中央生涯学習センター 小講座室
牛久駅東口下車 徒歩25分 (029-871-2300)

議題： (1) 第17期（2015年度）活動報告承認の件
(2) 第17期（2015年度）活動決算及び監査報告承認の件
(3) 第18期（2016年度）活動計画案承認の件
(4) 第18期（2016年度）活動予算案承認の件
(5) その他

特定非営利活動法人アサザ基金
300-1222 牛久市南3-4-21
電話 029-871-7166
asaza@jcom.home.ne.jp

特定非営利活動法人アサザ基金第17期（2015年度）活動報告

2015年4月1日～2016年3月31日

第17期は職員のマンパワー不足をいかに乗り切るかでスタートしました。環境教育事業や水源地保全事業など、多くの方々の共感とご支援をいただき、仕事の質を落とさず、さらに発展させながらやり遂げることが出来ました。アサザプロジェクトは変革の時を迎えていたのかもしれません。その証として里山を丸ごと再生保全する（事業規模拡大）ため、有志で「株式会社新しい風さとやま」を1月に設立したことは特筆すべきことです。農業者の高齢化、耕作放棄地の増加等の問題に対処するための大きな一歩を踏み出しました。秋には新しい人材も加わりました。逆水門の柔軟運用や、冬季の水位操作問題など、霞ヶ浦の根本的な改善策にむけての進展はありませんでしたが、オオヒシクイの越冬数が過去最大の135羽となったことは朗報です。

2015年4月1日から2016年3月31日までに13,708名がアサザプロジェクトの活動に参加しました。

○ 湖の再生事業

- 逆水門の柔軟運用及び冬季の水位管理の見直し、ウナギで霞ヶ浦を再生！などの提案に進展はありませんでした。今後も粘り強く取組んでいきます。
- アサザ群落を復活させるため、企業や市民によるアサザの植付けを霞ヶ浦湖岸で行いました。玉里東小では校内全体行事として実施しました。ここ数年、残念ながら定着しない状況が続いています。保育園の子供達や企業の方々など延べ224名が参加しました。

植付	日立化成（株）7/25(8名) 茨城日化サービス（株）8/19(80名) コカ・コーラライーストジャパン（株）8/18、20(80名) NECフィールディング（株）8/22(5名) 納場保育園 9/1(22名) 新宿カッパ村 9/15(12名) (株)SHカッパープロダクト 10/10(9名) 豊津小 10/29(8名) ● (株)ツムラと大日本印刷（株）にはアサザの里親としてご協力いただきました。 (敬称略)
----	--

- 霞ヶ浦・北浦の放射能汚染対策事業において、霞ヶ浦流入河川の底泥採取（4月）・放射能計測（5月）を行いました。値は横ばいです。
- 潮来ジャランボPJ実行委員会より委託を受け、水郷トンボ公園の維持管理（4/26開園作業・田植え、池の攪乱、江間の整備、6/28コカ・コーラライーストジャパングループ労働組合による池の除草、9/13稲刈り・脱穀、除草、樹木の手入れ等11/1閉園作業）をジャランボPJや地域住民と連携して、実施しました。

○ 環境教育事業

新しい社会を築いていくためには、新鮮な感性と豊かな創造力、行動力を持つ人材の育成が不可欠です。アサザプロジェクトの環境学習は、単なる環境知識の普及に留まらず、こども達の視野を広げ新たな社会や生き方を創る発想へと導く学習を目指して取り組みました。その学習の成果を事例集としてまとめ（2種）関係者に配布しました。2015年度は全体で10,771名の児童生徒が参加しました。

- 牛久市教育委員会との協働による環境学習出前授業（2004年～）を、市内全小中学校で年間を通したプログラムで実施し、計7,557名が参加しました。2016年1月30日には「カッパ大交流会」が開かれ、子ども達が日頃の学習の成果を発表し合い、市長さんにも聞いていただきました。北九州市から曾根東小の生徒6名を招いて交流しました。
◎ 恒例のトンボスケッチ会を8月3日、牛久市立神谷小学校に隣接するカワセミの郷とワクワクランドで実施しました。参加者は市内の小学生とその家族等約60名でした。今年も茨城トンボ㈱様、神谷小学校様のご支援ご協力をいただきました。
- 霞ヶ浦流域では、石岡市、潮来市、鹿嶋市、龍ヶ崎市の小学校に10回訪問し、アサザプロジェクトの環境学習に307名の児童が参加しました。
- 三重県大紀町と大台町からの委託を受け、過疎問題に直面する地域の七保小、七保未来塾と宮川小において、環境学習と地域活性化の取組みを進めました。6、8、9、12、1、2、3月に訪問し、312名が参加しました。3月にはお茶摘み企画のPRのため三重県庁で記者会見を行いました。
- 地球環境基金の助成を活用して、下記の学校で環境学習をすすめました。
 - ・北九州市立曾根東小、市丸小、すがお小へ6、7、10、11、3月に訪問し1,267名が参加しました。11月の発表会では講話も行いました。
 - ・宮城県南三陸町立伊里前小学校では復興をテーマに環境学習を継続しました。9、10、12月に訪問し計129名の児童が参加しました。12月の商店街のお祭りで立派に「独自のわかめブランド」をPRしました。
 - ・長野県天龍村立天龍小学校に6、7、9、11月と4回訪問し、環境学習授業には103名が参加しました。
 - ・秋田県八郎湖流域の潟上市、男鹿市内の小学校4校に7、10、11、2月に訪問し362名が環境学習に参加しました。
- NECキャピタルソリューション㈱と協働で進める＜わくわく子どもの池プロジェクト＞（2007年～）では、墨田区立第一寺島小学校と押上小学校で計9回の授業を実施、684名の子供達が参加しました。都内では他に目黒区立八雲小で環境学習を行い50名が参加しました。

○ 水源地保全事業

谷津田再生

企業や行政、大学、地域住民等と協働で、それぞれの特色を生かした谷津田再生事業を進めました。牛久市や鹿嶋市で計7ヶ所。企業の社員や家族がボランティアで参加し、年間を通した米づくり、レンコンづくり、自然体験プログラムに汗を流すとともに、地域住民とも交流しながら、酒造りや味噌、醤油作りを通して地場産業の活性化にも一役買いました。全体の参加者は2,059名でした。

NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金 (上太田地区は2010年～全長1キロの谷津田再生)	田植 6/6 草取 8/1 稲刈 10/24 脱穀 11/7 再生計画 12/12 味噌づくり 2/11 達人コース 全14回 計570名
三井物産谷津田再生プロジェクト（2007～）田んぼ周辺の整備が進んでいます。田んぼアートに挑戦しました	田植 5/30 草取り 7/11 親子里山教室 8/7 稲刈 10/3 酒仕込 1/16 蔵出 3/5 計323名
一橋大学大学院 (ICS)	2回の講義 4/8 5/13 田植 5/9 草取り 6/21 稲刈 9/13 計247名

海外留学生との谷津田再生プロジェクト（2014年～）	
U B S R I C E P r o j e c t (2008年～) 山之上谷津田再生協議会と連携して進めています。	田植 5/17 草取 6/20 稲刈 9/27 蔵出 1/24 計 340名
ホギメディカル谷津田再生プロジェクト（2009年～） 牛久市との協働事業です。	田植 5/23 草取 7/4 稲刈有志 9/12 稲刈 10/24 酒仕込 2/6 新酒蔵 3/12 計 295名
かっぽん田プロジェクト（2010年～）損保ジャパン日本興亜ラーニング生（大学生）主体の援農活動	代掻き 4/29 田植 5/16 草取 7/25 稲刈合宿 9/26-27 脱穀 10/10 収穫祭 2/20 計 158名
レンコンづくりによる谷津田再生事業 (2012年～2015年終了) NEC フィールディング	4/18 6/6 7/18 8/22 9/5 10/17 11/7 1/17 2/20 3/5 計 73名

森づくり ミツバチ

牛久市クリーンセンター近くの山林で、森づくり（2009年～）と Bee プロジェクト（2010年～）を UBS 証券(株)から支援と牛久市の協力をいただき進めました。4/19と11/28の2回の活動プログラムに53名が参加しました。

○ 地域循環型社会構築に関わる事業

魚粉事業（森と湖と人と農をつなげるビジネスモデルづくり）（2004年～）

原発事故による放射能汚染問題で外来魚の水揚げが困難となり、今年度も事業は休止となりました。

キヤノンマーケティングジャパン（株）協働事業「人も河童も喜ぶW I N-W I N型循環社会の構築」（2009年～）

流域に広がる耕作放棄地の再生、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、食用油となる資源作物の栽培、霞ヶ浦の自然再生・活性化事業によってできる材料を活用したせんべいづくりに福祉作業所も連携し、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを進めてきました。畠での活動は6年目を終えた所で、今年度は4回のプログラムに98名が参加しました。魚粉事業の再開が望まれます。

日立化成（株）協働事業「しょうゆで自然とつながろうプロジェクト（2012年～）

霞ヶ浦の自然再生と活性化を進める醤油づくり、ブランドづくりに取り組みました。3回のプログラムに66名が参加しました。

花畠プロジェクトへの協力（2011年～） 日本テキサス・インスツルメンツ(株)美浦工場は、近接地にある耕作放棄地でヒマワリやナタネを栽培し、油を絞って社内で活用しました。その活動に協力しました。

研修生やボランティアの受け入れ

損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSOラーニング制度」から2名のインターン生を受け入れました。(7月～2月の8ヶ月間) アサザプロジェクト全般について体験するとともに、牛久南中学校での環境学習の活動支援、ラーニング生を巻き込んだイベントの企画・調整に取り組みました。

社会人や専門学校生などのボランティア希望者を受け入れ、様々な活動に参加していただきました。

自然保護のブランド米「オオヒシクイ米」の販売

オオヒシクイの越冬数はこれまでの最多となる 135 羽となりました。越冬地の農家さんのご協力と地元の支援体制が整い、オオヒシクイが安心して越冬出来る環境が維持されているためと思われます。毎月 1 回のお米の発送、12 月、3 月にはのし餅の発送も合わせて行いました。

アサザプロジェクトオリジナル地酒「広がれあさざの夢」の流域ブランド化をすすめました！

水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、アサザプロジェクトのオリジナル酒「広がれあさざの夢」を愛友酒造〈潮来〉で製造、牛久市内のヨークベニマル店で販売協力いただきました。引き続き霞ヶ浦ブランドとしての定着を目指していきます。アサザ基金事務所でも支援金(1,100 円)をいただくと「広がれあさざの夢」をお渡しできます。

湖がよろこぶ煎餅プロジェクト

霞ヶ浦再生ブランドの煎餅製造に、小美玉市の大形屋商店に協力いただきました。水源地の再生、地域活性化、水産資源の保全を目的としています。煎餅の原料には「密漁をしない漁師から仕入れた「ざざえび」と、谷津田再生事業に取り組んでいる(株)ホギメディカルとかっぱん田PJが栽培した無農薬栽培米の米粉を使用しました。牛久市内の社会福祉法人みのるの郷で販売の協力をいただきました。

会報の発行

会報「あさざだより」を 2015 年 5 月、10 月の 2 回、2016 年 3 月お知らせ号を発行し、会員の皆様や学校、関連企業などの関係者に配布し、活動紹介に努めました。(発行部数/毎号 約 1000 部)

ホームページ運営

アサザプロジェクトを紹介する窓口として、リアルタイムの情報発信に努めました。

講演、視察研修の受け入れ

全国各地で開催されるシンポジウムや講演会、大学の講義などに代表理事の飯島等が講演者やパネラー、講師として 12 回出席し、アサザプロジェクトの活動理念を紹介しました。

視察では、大学や社会企業関連などの5団体を受け入れました。

アサザプロジェクトへの参加人数 2015/4~2016/3

環境教育事業	10,771
水源地保全事業	2,059
その他	825
計	13,655名

1995年発足から、アサザプロジェクトへの参加者数は延べ285,113名となりました。

私達は 市民や企業が「応援したい団体」へ寄附することで（寄附金税額控除を活用して）税金を含めた公共を支える資金の流れを変えることが出来る と考えます。
未来の社会を選択する手段として 寄附税制を活用しましょう！

2015年度は138件のご寄附をいただきました。会費と寄附の総額は8,756,361円でした。

認定NPO法人へのご寄附は税制優遇の対象になります！

- * 寄附者（個人）の税制優遇 寄附したお金の最大50%が戻ってきます
- * 遺産で社会へ恩返し！ 相続した財産を寄附すると、その分は相続税非課税となります
- * 企業の社会貢献を応援！ 法人税を軽減させる「寄附金損金算入枠」が通常の約3倍～5倍です

イオンのイエローレシートキャンペーンから、総額100,900円（4/8 43,700円、10/9 57,200円）分の物品を購入し、活動に役立てました。